

ひふみのあゆみ



ひふみらいと

ひふみらいと 追加型投信/内外/資産複合

2022年5月度 月次ご報告書

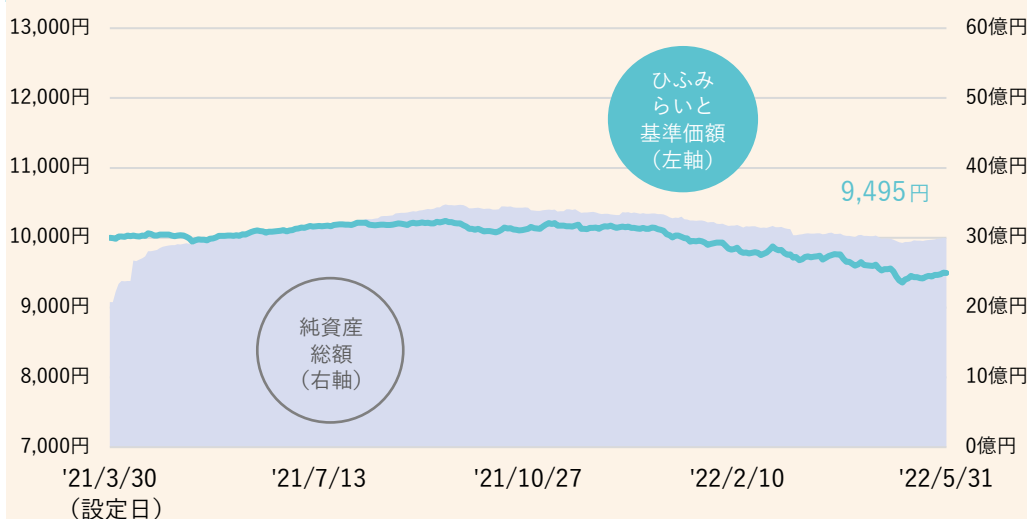
レオス・キャピタルワークスよりお客様へ
資産形成のパートナーに「ひふみらいと」をお選びいただき、ありがとうございます。
運用状況ならびに運用責任者からお客様へのメッセージなどをご報告します。



作成基準日：2022年5月31日

運用実績

基準価額等の推移（日次）



※基準価額は1万口あたりです。また信託報酬控除後の値です。

※当レポートにおいて特段の注記がない場合は、基準日時点における組入比率や運用実績を表しています。また運用成績など表記の値については、小数点第三位を四捨五入して表示しています。そのため組入比率などでは合計が100%にならない場合があります。

※「運用成績」の「設定来」は、設定時の価額（10,000円）を起点として算出しております。

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※「受益権総口数」とは、お客様に保有していただいている口数合計です。

*「ひふみワールドファンド」は正式名称を『ひふみワールドファンド FOFs用（適格機関投資家専用）』といい、「ひふみワールドマザーファンド」を高位に組み入れています。

※「現金等」には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※「基準価額の変動要因」は、月間の変動額を主な要因に分解した概算値であり、実際の数値とは異なる場合があります。また、四捨五入等の関係で、内訳の各数値の合計は基準価額変動額（月次）と合わない場合があります。「信託報酬・その他」のその他には、設定、解約の影響などがあります。

※「ひふみらいと」は複数の投資信託証券（投資対象ファンド）への投資を通じて実質的に債券や株式等へ投資し、投資対象ファンドの基本の組入比率：「ひふみグローバル債券マザーファンド」90%、「ひふみ投信マザーファンド」5%、「ひふみワールドファンド FOFs用（適格機関投資家専用）」5%を維持することを目指して運用を行なっています。（市況動向や運用の状況によっては組入比率が変動する場合があります）各投資対象ファンド等の状況については後述の「ご参考：マザーファンド基準価額の推移と運用実績」をご覧ください。

運用成績

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ひふみらいと	-0.67%	-3.00%	-6.37%	-5.34%	-	-5.05%

ひふみらいとの運用状況

基準価額	9,495円
純資産総額	29.94億円
受益権総口数	3,153,831,614口

ひふみらいと 投資信託財産の構成

ひふみグローバル債券マザーファンド	89.23%
ひふみ投信マザーファンド	5.03%
ひふみワールドファンド*	5.25%
現金等	0.49%
合計	100.00%

分配の推移（1万口当たり、税引前）

第1期	2022年4月	0円
-	-	-
-	-	-
-	-	-
-	-	-
-	-	-
設定来合計		0円

基準価額の変動要因

基準価額変動額（月次）	-64円
〔組み入れファンド別変動要因内訳〕	
ひふみグローバル債券マザーファンド	-62円
ひふみ投信マザーファンド	+3円
ひふみワールドファンド*	+0円
信託報酬・その他	-5円
〔実質的な資産等項目別の変動要因内訳〕	
債券	-46円
株式・投資証券	+5円
為替	-18円
信託報酬・その他	-5円

ひふみグローバル債券マザーファンド 運用状況

ひふみグローバル債券マザーファンドの状況	
純資産総額	276.76億円
組み入れ銘柄数	33銘柄
種別比率	
国債	47.84%
社債	12.94%
住宅ローン担保証券	9.14%
特殊債	5.03%
地方債	1.72%
国際機関債	0.96%
債券先物取引	-2.16%
現金等	24.53%
合計	100.00%

為替ヘッジ比率	
	94.27%

組み入れ上位5通貨 比率	
1 米ドル	31.88%
2 日本円	20.19%
3 ユーロ	18.82%
4 中国元	5.03%
5 オーストラリア・ドル	1.72%

ポートフォリオ特性値	
最終利回り	1.81%
デュレーション	7.7
格付比率	
AAA	27.40%
AA	1.86%
A	40.25%
BBB	8.12%
BB以下	-
資産別比率	
海外債券	57.44%
国内債券	20.19%
債券先物取引	-2.16%
現金等	24.53%
合計	100.00%

組み入れ上位5カ国 比率	
1 アメリカ	35.23%
2 日本	20.53%
3 イタリア	8.12%
4 スペイン	6.05%
5 中国	5.03%

組み入れ上位10銘柄 比率						
銘柄名	種類	国	通貨	償還日	組入比率	
1 ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO	国債	イタリア	ユーロ	2031/12/1	8.12%	
2 FNCL 3.5 6/22 Mtge	住宅ローン担保証券	アメリカ	米ドル	2052/3/25	7.75%	
3 第175回利付国債 (20年)	国債	日本	日本円	2040/12/20	7.31%	
4 US TREASURY N/B	国債	アメリカ	米ドル	2041/2/15	7.19%	
5 SPAIN GOVERNMENT BOND	国債	スペイン	ユーロ	2031/10/31	6.05%	
6 第73回利付国債 (30年)	国債	日本	日本円	2051/12/20	5.33%	
7 CHINA DEVELOPMENT BANK	特殊債	中国	中国元	2029/5/21	3.62%	
8 US TREASURY N/B	国債	アメリカ	米ドル	2041/8/15	3.12%	
9 BANK OF AMERICA CORPORATION	社債	アメリカ	ユーロ	2026/9/22	2.99%	
10 US TREASURY N/B	国債	アメリカ	米ドル	2041/5/15	2.81%	

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※「ポートフォリオ特性値」は、ファンドの組入債券等（現金等を含む）の各特性値（最終利回り、デュレーション）を、その組入比率で加重平均したものです。なお、債券先物を含めて計算しています。
（Bloombergの情報を基にレオス・キャピタルワークス株式会社作成）
最終利回りは、ファンドが投資している債券等の特性を示すために各債券の利回りから算出したものであり、ファンドの運用成果を示唆、保証するものではありません。
デュレーションは、金利の変動による債券価格の感応度を表しています。値が大きいくほど金利変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

※各比率は、ひふみグローバル債券マザーファンドの純資産総額に対する比率を表示しております。

※「種別比率」「資産別比率」の現金等は、純資産総額から有価証券時価総額を差し引いたコールローン、その他の資産です。なお、ヘッジ目的で先物取引を利用する場合があります。

※格付は、ムーディーズおよびS&Pの格付のうち高いものを採用し、S&Pの格付形式で表示しています。

※「組み入れ上位5カ国比率」は原則として発行国で区分しております。なお、国には地域が含まれます。また、国際機関等特定の国に分類しない場合があります。

※「格付比率」「組み入れ上位5通貨比率」「組み入れ上位5カ国比率」は、現物債券について表示しております。

※「為替ヘッジ比率」は、純資産総額に対する為替予約評価額と円貨資産額の合計の比率です。売買等の計上タイミングや市況動向により比率が100%を超える場合があります。

ひふみ投信マザーファンド 運用状況

ひふみ投信マザーファンドの状況

純資産総額	6,803.58億円
組み入れ銘柄数	240銘柄
資産配分比率	
国内株式	85.75%
海外株式	5.02%
海外投資証券	-
現金等	9.23%
合計	100.00%

市場別比率

プライム市場	81.37%
スタンダード市場	2.72%
グロース市場	1.66%
その他海外株	5.02%
現金等	9.23%
合計	100.00%

組み入れ上位10業種 比率

1 情報・通信業	11.23%
2 電気機器	9.74%
3 サービス業	9.18%
4 化学	5.01%
5 海運業	4.96%
6 食料品	4.37%
7 建設業	4.25%
8 機械	4.15%
9 小売業	3.89%
10 保険業	3.78%

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※各比率は、ひふみ投信マザーファンドの純資産総額に対する比率を表示しております。

※「資産配分比率」「市場別比率」の現金等は、純資産総額から有価証券時価総額を差し引いたコールローン、その他の資産です。

※「資産配分比率」の株式には新株予約権を含む場合があります。「海外投資証券」はREIT（不動産投資信託）等です。

※「組み入れ上位10業種比率」は国内株式における上位業種を表示しています。

※「組み入れ上位10業種比率」「組み入れ上位10銘柄比率」の業種は、東証33業種分類を用いて表示しています。なお、海外株式、海外投資証券については「その他海外株」として表示しています。

※「組み入れ上位10銘柄比率」の規模は、基準日時点の時価総額と以下の区分に基づき作成しています。

大型(3,000億円以上)

中小型(300億円以上,3,000億円未満)

超小型(300億円未満)

組み入れ上位10銘柄 比率

銘柄名	銘柄コード	規模	上場市場	業種	組入比率
1 ソニーグループ	6758	大型	プライム市場	電気機器	2.48%
2 東京海上ホールディングス	8766	大型	プライム市場	保険業	2.12%
3 オリエンタルランド	4661	大型	プライム市場	サービス業	2.04%
4 味の素	2802	大型	プライム市場	食料品	1.86%
5 川崎汽船	9107	大型	プライム市場	海運業	1.85%
6 東京エレクトロン	8035	大型	プライム市場	電気機器	1.80%
7 IHI	7013	大型	プライム市場	機械	1.75%
8 インターネットイニシアティブ	3774	大型	プライム市場	情報・通信業	1.70%
9 日立製作所	6501	大型	プライム市場	電気機器	1.62%
10 日揮ホールディングス	1963	大型	プライム市場	建設業	1.59%

ひふみワールドファンド* 運用状況

純資産総額	261.04億円	投資信託財産の構成	
		ひふみワールドマザーファンド	99.72%
		現金等	0.28%
		合計	100.00%

*「ひふみワールドファンド」は正式名称を『ひふみワールドファンド FOFs用（適格機関投資家専用）』といい、「ひふみワールドマザーファンド」を高位に組み入れています。

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※各比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。

※現金等は、純資産総額から有価証券時価総額を差し引いたコールローン、その他の資産です。未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※「資産配分比率」の株式には、新株予約権を含む場合があります。海外投資証券はREIT（不動産投資信託）等です。

※「組み入れ上位10カ国比率」「組み入れ上位10銘柄比率」の国は、原則として発行国で区分しております。なお、国には地域が含まれます。

※「組み入れ上位10業種比率」「組み入れ上位10銘柄比率」の業種は、株式における上位業種を表示し、原則としてGICS（世界産業分類基準）の産業グループ分類に準じて表示しております。

ひふみワールドマザーファンド 運用状況

ひふみワールドマザーファンドの状況	組み入れ上位10カ国 比率	
純資産総額	2,712.52億円	
組み入れ銘柄数	194銘柄	
資産配分比率		
海外株式	86.64%	
海外投資証券	1.39%	
現金等	11.97%	
合計	100.00%	
	1 アメリカ	62.66%
	2 ドイツ	3.64%
	3 フランス	3.19%
	4 イギリス	2.55%
	5 中国	1.95%
	6 オランダ	1.91%
	7 スイス	1.75%
	8 カナダ	1.43%
	9 台湾	1.40%
	10 アイルランド	1.37%

組み入れ上位10業種 比率	組み入れ上位10通貨 比率		
1 資本財	14.59%	1 米ドル	67.66%
2 ソフトウェア・サービス	12.20%	2 ユーロ	8.60%
3 半導体・半導体製造装置	8.43%	3 イギリス・ポンド	2.45%
4 各種金融	7.26%	4 スイス・フラン	1.75%
5 食品・飲料・タバコ	6.31%	5 台湾ドル	1.40%
6 エネルギー	5.16%	6 デンマーク・クローネ	1.30%
7 小売	4.39%	7 香港ドル	1.25%
8 ヘルスケア機器・サービス	4.36%	8 オーストラリア・ドル	1.07%
9 メディア・娯楽	3.19%	9 ノルウェー・クローネ	0.94%
10 自動車・自動車部品	3.14%	10 中国元	0.91%

組み入れ上位10銘柄 比率				
銘柄名	国	通貨	業種	組入比率
1 DEERE & CO	アメリカ	米ドル	資本財	1.71%
2 MTU AERO ENGINES AG	ドイツ	ユーロ	資本財	1.66%
3 ACCENTURE PLC	アイルランド	米ドル	ソフトウェア・サービス	1.37%
4 TYSON FOODS, INC	アメリカ	米ドル	食品・飲料・タバコ	1.28%
5 CADENCE DESIGN SYSTEMS, INC	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	1.25%
6 THE HERSHEY COMPANY	アメリカ	米ドル	食品・飲料・タバコ	1.18%
7 TEXAS INSTRUMENTS INC	アメリカ	米ドル	半導体・半導体製造装置	1.14%
8 BROOKFIELD ASSET MANAGEMENT INC	カナダ	米ドル	各種金融	1.14%
9 TJX COMPANIES INC	アメリカ	米ドル	小売	1.11%
10 TETRA TECH, INC	アメリカ	米ドル	商業・専門サービス	1.07%

ひふみグローバル債券マザーファンド 基準価額の推移（日次）



運用成績	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	ひふみらいと設定来
ひふみグローバル債券マザーファンド	-0.73%	-3.39%	-5.88%	-5.03%	-	-4.68%

※「ひふみらいと」が直接または間接的に投資している各投資信託証券の基準価額の推移と運用成績を、「ひふみらいと」の当初設定日の前営業日（2021年3月29日）を10,000として指数化して作成、算出しております。

※運用成績は小数点第三位を四捨五入して表示しています。「ひふみらいと設定来」は、「ひふみらいと」の設定日の前営業日（2021年3月29日）（「ひふみグローバル債券マザーファンド」は当初設定時）を起点として算出しております。

※「ひふみらいと」の投資対象ファンドの一つである「ひふみワールドファンドFOFs用（適格機関投資家専用）」は、「ひふみワールドマザーファンド」を高位に組み入れています。ここでは、「ひふみワールドマザーファンド」の基準価額の推移と運用成績を記載しております。

ひふみ投信マザーファンド 基準価額の推移（日次）



運用成績	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	ひふみらいと設定来
ひふみ投信マザーファンド	0.64%	1.00%	-10.26%	-8.88%	-	-12.20%

ひふみワールドマザーファンド 基準価額の推移（日次）



運用成績	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	ひふみらいと設定来
ひふみワールドマザーファンド	-0.12%	0.89%	-8.81%	-0.24%	-	5.96%

運用責任者よりお客様へ：ひふみらいと

当ファンドに組み入れている「ひふみ投信マザーファンド」の上昇がプラスに寄与したものの、「ひふみグローバル債券マザーファンド」の下落が主にマイナスに影響し、前月末に比べて、基準価額は0.67%下落しました。

【ひふみ投信マザーファンド】

世界的にインフレ圧力が高まるなか、米国が金融引き締めを急速に進展させるとの懸念が強まる場面がありましたが、FOMC（米連邦公開市場委員会）議事要旨が想定内の内容となったことなどを受けて月末にかけて過度な警戒感が和らいだこともあり、基準価額は0.64%上昇しました。なお、同期間における参考指標であるTOPIX（東証株価指数、配当込み）は0.78%上昇しています。

【ひふみワールドファンドFOFs用（適格機関投資家専用）】

世界的な金融引き締めと今後の景気悪化に対する懸念から株式市場は大きく下落する場面がありましたが、月末にかけて過度な警戒感が和らぐなか、基準価額は0.13%（ひふみワールドマザーファンドは0.12%）下落しました。

【ひふみグローバル債券マザーファンド】

米国のFOMCで事前の予想通りである0.5%の利上げと保有資産縮小の開始が決定されました。欧州でもインフレ圧力が高まりを見せるなか、ECB（欧州中央銀行）総裁が早期の利上げ開始を示唆しています。このような状況下、欧州を中心に金利が上昇（債券価格は下落）したことで基準価額は0.73%下落しました。

世界的なインフレと景気の動向など不透明感が強まっている状況ですが、皆様からお預かりしている大切な資産を守り、さらに成長させていくように全力を尽くして運用してまいります。引き続きどうぞよろしくお願いたします。

運用責任者よりお客様へ：ひふみグローバル債券マザーファンド

米10年金利は5月に入ってから上昇を続け一時3.19%に達しましたが、その後低下に転じ、31日引けでは2.85%でした（4月末は2.94%）。短期金利の利上げ織込みは長らく拡大を続けてきましたが、4日のFOMC（米連邦公開市場委員会）ではパウエル議長が1回あたり0.75%に利上げ幅を拡大することに消極的な姿勢を見せるなど、経済活動に配慮するスタンスへの転換が見られました。6月、7月の利上げ幅は0.5%であることがメインシナリオとして提示されました。9月に関しては25-50bp利上げされる可能性が高いものの、一部のメンバーは利上げ休止を主張し、市場が織込む利上げ到達点も低下しました。また、売買統計等から日本勢の売りも一旦終了したものと判断されます。また、物価連動債から計算される予想インフレ率がやや低下したことで、10年実質金利はプラスへ転換しました。10年債の金利が予想インフレ率を上回っているということであり、投資対象としての魅力が高まってきました。

欧州金利では、多くのECB（欧州中央銀行）メンバーが年内複数回の利上げを主張しました。当面インフレ対応を優先させる流れが鮮明になっており、依然として金利上昇トレンドが続いています。

日本では、4月28日の金融政策決定会合では無制限買入れオペを毎日実行することを明確化し、イールドカーブコントロール（YCC）修正の織込みが減退、金利は全般に低下気味でしたが、10年金利に関してはもともと上昇を抑えられていたため極めて限定的な値動きでした。かつて10年金利の変動幅の調整やステルステーパリングを主導した日銀幹部は総裁人事を控え、緩和縮小に否定的な立場を相次いで表明しており、更なる円安や賃金の上昇などのカタリストが必要な状況です。

引き続き全力で運用してまいります。どうぞよろしくお願いたします。



ひふみらいと
ファンドマネージャー
岡田 泰輔

※TOPIXは、全てTOPIX（配当込み）を用いています。TOPIX（配当込み）は当ファンドのベンチマーク（運用する際に目標とする基準）ではありませんが、参考として記載しています。TOPIXは、株式会社J P X総研が算出、公表する株価指数です。日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。



ひふみグローバル債券
マザーファンド
ファンドマネージャー
福室 光生

※TOPIX等の指数値およびTOPIX等に係る標章または商標は、株式会社J P X総研または株式会社J P X総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIX等に関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIX等に係る標章または商標に関するすべての権利はJ P Xが有します。J P Xは、TOPIX等の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中絶に対し、責任を負いません。当ファンドは、J P Xにより提供、保証または販売されるものではなく、当ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJ P Xは責任を負いません。

毎年、5月は3月決算の企業の新年度ガイダンスのシーズンであり、ゴールデンウィーク中に米国中央銀行の金融政策の方針のアナウンスが重なります。これについてはタカ派継続のニュースに詳細等は譲るとして、主に日本企業の決算について気付きを記します。

まず、現状は原材料価格高騰が意識され、「悪い円安論」が大勢を占めますが、着地の決算に関しては、為替が円ベースでプラスに寄与しています。製造業の多くは、製造拠点を海外に移し、いわゆる「外外取引」といわれる地産地消化を進めてきたこともあり、物価高の影響は販売価格へ転嫁できていると思われます。物価が上昇することで国内の輸入品を多く利用している企業などに大きな影響を及ぼしています。そして、依然として物価高騰は継続してるため、新年度予算を控えめにする企業が多く見受けられます。

次に、株主還元姿勢の変化です。アベノミクス以降、大手企業は自社のバランスシート上の無駄を省く活動を行なってきました。今回の決算では、好調な企業も不調な企業も、大手企業も中小企業もその姿勢を強化し、ファイナンスの基本中の基本である「借りたら返す」を実践する姿勢が過去最高に明確になったと思います。自社株買いの発表件数やその予定額も過去最高でしょうし、資本効率をどう高めるかの指針が示されたことは、日本株が米国株のような経営姿勢に変化したようにも思えます。

この点をもう少し言及すると、体力のある大手企業がこの活動については開始時期が早かったのですが、最近は中小企業もその流れに乗っていますし、割安株の代表格である地方銀行も思い切った動きをとっています。中小企業は大手企業と比較して有利なのは、スピードと小回りが利くところです。シンプルな経営体制からなされるシンプルで速い行動が企業価値を高めますが、それは大手企業よりも早い改善ができる可能性を予見させます。ここまで中小型株への投資は相場の状況もあり、控えめなスタンスをとっていましたが、当社が得意とする成長が期待できる中小型株への調査は以前と変わらず、ここに好機があるのではないかと考えています。

5月のひふみ投信マザーファンドの基準価額は、0.64%の上昇でした。TOPIX（東証株価指数、配当込み）が0.78%の上昇ですので、相場についていくことは従前からの考え通りです。しかし、前述の通り、世に変化が生じています。そこに投資機会のある可能性が高まっています。いつもながら同様のメッセージとなりますが、変化を捉えるべく皆様からお預かりした大切な資金をもとに引き続き全力で調査・運用活動に励んでまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



ひふみ投信マザーファンド
ファンドマネージャー
佐々木 靖人

※日経平均株価に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社日本経済新聞社に帰属します。

「人の行く裏に道あり花の山」とは日本における有名な相場格言ですが、実は海外にも相場格言があります。その中でも有名なひとつが“Sell in May”でしょう。これは5月には相場は天井をつけやすいから（それまでに）さっさと売ってしまえ、と一般的には理解されています。そして今年の5月ほどこの相場格言を意識した方は決して少なくはないでしょう。

S&P500の5月の騰落率は前月比ほぼ横ばいで終了しました。これだけを見ると年初から続いていた軟調な相場推移がようやく一服したように見えますが、その実態はかなり異なり5月の高値から安値までの下落率はほぼ10%にもなり、とても上下動の激しい月でした。上旬～中旬までは「インフレ圧力」と「利上げ加速のリスク」への懸念から相場は軟調に推移しましたが、25日にFRB（連邦準備制度理事会）により公表されたFOMC（連邦公開市場委員会）議事要旨（5月3日～4日開催分）で相場の雰囲気ガラリと変わりました。「大半の参加者」が6月及び7月の会合での「追加利上げ幅は0.5%が適切である可能性が高い」としていたことから、加速する利上げ～景気後退への懸念が薄まり相場は一気に反転し、それまで大きく売り込まれていたソフトウェア関連企業を中心に大きく上昇に転じました。

指数がすでに直近高値から20%程度下落していたこと、米機関投資家の平均現金比率は2001年の同時多発テロ以降で最も高かったこと、その株式への配分もこの2年間で最大のアンダーウェイトであったこと、などから短期的な反転相場入りの可能性があることは指摘しておりましたが、まさにそれが実現したように思われます。更には、物価に関して一部高水準は継続しつつもピークアウト感が出ていること、それにより米金利上昇ペースの減速～落ち着きが期待されることからベア・マーケットラリー入りしたのではないかと、という意見も散見されます。

そうなると問題は直近の上昇が「下落過程における単なる中間反騰」にすぎないのか、あるいは「下落過程が終了し本格的な上昇への入口」に立っているのか、ということになりますが、これについて結論を出すには早急に過ぎます。しかしながら、ただひとつ言えるのは、年初からの金利上昇予想（及びその加速への懸念）によりS&P500の今期予想PERは年初段階の20倍半ばから現在は約18倍（来期予想では16倍）にまで大幅に下落したことからバリュエーション調整はほぼ一段落し、今後はEPS見通しが一層重要になってくることだと考えています。

さて冒頭で海外の相場格言である“Sell in May”に触れました。実はこの格言にはあるフレーズが続いています。それを加えて改めて記してみるとこうなります。“Sell in May and go away, don't come back until St Leger Day.” “St Leger Day”は9月に開催されるイギリスの有名な競馬レースを指し、この格言を文言通りに読むと「St.Leger Dayが開催される9月までは戻ってくるな」となるところですが、本来は反語的に解釈し「9月以降の相場上昇に備えよ」と読むべきであり、誤解を恐れずに言えば「この時期に将来への投資を進めることが重要である」と考えます。相場環境が不安定な時期にこそ落ち着いて企業価値の源泉を見つめ直し、株価の上下に一喜一憂するのではなく投資のチャンスを窺っていくべきでしょう。これまでひふみワールドマザーファンドはポートフォリオの平均バリュエーションを引き下げ現金等の比率を比較的高めに維持してまいりましたが、すでに「GAFAM1強時代から成長企業の広がりや市場の先導役の交代の兆し」を意識しつつ銘柄の組み入れも始めるなど、市場の変化に柔軟に対応し、メンバー全員で皆様からお預かりした大切なご資産を成長させるべく全力を尽くしております。引き続き、ひふみらいとをどうぞよろしくお願いたします。



ひふみワールドマザーファンド
ファンドマネージャー

湯浅 光裕



底入れ上昇に向かうのか、夏相場の行方

注目の米物価高騰に鈍化の兆し

世界株式市場は年初以降、下落・調整相場を辿ってきました。特に昨年まで値上がり率の大きかった米国株、なかでもハイテク株のウェイトの高いNASDAQの大幅下落が顕著です。下落要因はインフレ、金融引き締め、資源エネルギー高、露宇戦争、中国景気の失速などが挙げられ、世界的株安はいわば複合的な下落相場の様相ですが、主因は欧米を中心とする物価高騰と抑制のための強硬な金融引き締めへの警戒にあると考えられます。

米国の金融政策は3月のFOMC（連邦公開市場委員会）で0.25%、5月に通常の2倍の0.5%の利上げが決まり、保有資産の減額政策（QT）も示されました。パウエル議長の記者会見では次回6月と7月の2会合に各0.5%の利上げを示唆しました。当局としてはインフレ抑制のため大幅利上げを継続するものの、かなり明確な今後の方針を示すことで市場の混乱を抑制したいとの意図がにじみ出たとみられます。

一筋の光明は米国のインフレ率や賃金上昇率に頭打ちの兆しが出てきたことです。FRB（連邦準備制度理事会）が重視するコアPCE価格指数の前年比は2月の+5.3%をピークに3月、4月と2ヵ月連続鈍化に転じました。仮に夏場に物価鈍化が一段と鮮明になれば、9月のFOMCでは0.25%利上げにスローダウンする余地が広がると推察されます。利上げが継続してもペースダウンがみえてくれば株価の底入れ・上昇につながる可能性が高まりそうです。

欧州は露宇戦争と対ロ経済制裁に伴うエネルギーの供給制約などが直撃しており、米国に比べて物価高騰のピークアウトが後ズレし、ECB（欧州中央銀行）は7月以降急ピッチの金融引き締めに向かう可能性が高そうです。また、中国はゼロコロナ政策（⇒都市封鎖）から景気下ブレが顕著になりましたが、今後、金融緩和と財政刺激で底上げを目指しています。ただ、ゼロコロナ政策を堅持するため、景気下ブレリスクを内在していると推察されます。一方、日本は6月以降、訪日外国人の増加が予想されるなど、景気回復色が強まりそうです。

米国など世界株にとって最終的に米国が「景気後退」に陥るのか否かが焦点とみられます。株価水準面では金融引き締めと金利上昇を織り込む形で、米国株をはじめ主要国の株価収益率（PER）が大幅に低下していますが、5月下旬にはバリュエーション調整が進展し、割安圏を示唆する水準に入ったと評価されます。年内に米国の物価安定の道筋がみえてくれば、過度な金融引き締めと景気後退を回避できそうです。そのような場合、先見的に動く株式市場は夏場に底入れする可能性が高まるとみられます。

一方、物価高継続による過度な金融引き締めなどで米国が景気後退に陥る場合には、予想利益が減少に向かい、米国株は弱気相場の様相を強め、一段の世界株安になりそうです。これは現状、メインシナリオではありませんが、今年後半以降の注目点です。その際、米国経済を支える企業や個人の消費・投資行動に重要な影響を与える長期金利がカギとみまます。米国の長期的な「期待インフレ率」は現状2.5~3%ですが、長期金利がこれを大幅に上回るならば経済に抑制的と評価されます。例えば、米10年国債利回りが4%台に上昇すると赤信号点減でしょうし、逆にそこまで上昇しない場合には軟着陸の可能性が高いと推察されます。世界株にとって今夏場は底入れ上昇か、弱気相場かの岐路になりそうです。

(6月2日)

運用メンバーからのメッセージ

毎月、トピックを用意して運用メンバーのコメントを集めています。
多様な考えや価値観をお届けすることを通じて、新しい視点を持っていただくきっかけになれば幸いです。

今月のトピック

昨今テレビ離れが叫ばれていますが、皆さんが好きだったテレビ番組を教えてください。



Fujino Hideto
藤野 英人
代表取締役会長兼社長
最高投資責任者

子供の時はテレビばかり見ていました。その当時流行っているものはみんな見てました。それがいつしかYouTubeやSNSになっていったという話で、もし昔、SNSがあったらSNSをしていてテレビは見えてなかったでしょう。



Yuasa Mitsuhiro
湯浅 光裕
代表取締役副社長
未来戦略部長

1981年に始まった「Best Hit USA」に心が踊りました。それまでアメリカンカルチャーコンテンツの中心はTVドラマ中心だったのですが、音楽と映像が合体したミュージックビデオは海外ライフスタイルを立体的に感じる事ができたコンテンツです。高校生になりたての私はとてもワクワクしました。司会の小林克也さんは81歳になった今も現役でやっています。ライブが大切ですね。



Watanabe Shota
渡邊 庄太
運用本部長
株式戦略部長
シニア・アナリスト
シニア・ファンドマネージャー

1990年代から2000年代初頭にかけて帰宅後に、独身寮で深夜番組を観るのが好きでした。番組内で流れるショートアニメの話題で同僚たちと盛り上がったりして、いま思うと他愛もないことだけど、とても楽しかったですね。



Yatsuo Hisashi
八尾 尚志
シニア・アナリスト
シニア・ファンドマネージャー

土曜日に小学校から帰ったらお昼ご飯を食べながら吉本新喜劇を見て、遊んで帰ってきてきて晩ご飯が出来るまでの時間で宝塚歌劇をぼーっと見る、という典型的な関西の子だったこともあっていまでもテレビは見ます。好きな番組はブラタモリ、タモリ倶楽部、孤独のグルメ、イッテQ、鉄腕DASH、ドラマではアンナチュラル、でしょうか。



Sasaki Yasuto
佐々木 靖人
シニア・アナリスト
シニア・ファンドマネージャー

昔はテレビを全く見なかったのですが、今はわりと見るようになりました。いま好きなのはNHKの「ドキュメント72時間」、BSで放送されている「球辞苑」、BS日テレの「小さな村の物語 イタリア」、朝日放送の「探偵！ナイトスクープ」です。ドキュメンタリーやテンポよく深く掘り下げていっているコンテンツはYouTubeよりもテレビの方が力があると感じています。



Wei Shanshan
韋 珊珊
シニア・アナリスト
シニア・ファンドマネージャー

残念ながら好きだったテレビ番組はありません。テレビは朝ご飯と晩ご飯のときにニュースを聞くときにつけているぐらいです。YouTubeやAmazon Prime、また本から興味のある内容を選んで見るようにしています。

運用メンバーからのメッセージ



Takahashi Ryo
高橋 亮
シニア・アナリスト
シニア・ファンドマネージャー

探偵！ナイトスクープ、吉本新喜劇、紳助の人間マンダラ、痛快！明石家電視台等々、関西ローカルばかりですね。



Ono Shotaro
小野 頌太郎
シニア・アナリスト

おかあさんといっしょは良く見てました。最近だとテレ東のシナぷしゅをYouTubeで見えています。先日豊洲までシナぷしゅに会いに行ってきました。



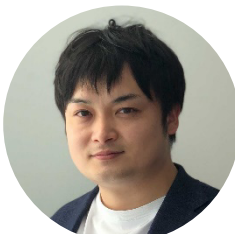
Senoh Masanao
妹尾 昌直
シニア・アナリスト

アメリカ横断ウルトラクイズ。地元周辺以外出た事がなかった自分にとっては、わくわくしながら見ていた記憶があります。そういう意味では世界ふしぎ発見！も好きです。あとは、毎回ひみつ道具が出てくるドラえもんも欠かさず見てました。



Oshiro Shintaro
大城 真太郎
シニア・アナリスト

伝統の一戦(巨人vs阪神)、踊る大捜査線、美少女戦士セーラームーン。



Naito Makoto
内藤 誠
シニア・アナリスト

小学生のときは”スラムダンク（アニメ）”を見てモチベーションを高め、サッカーの練習に励んでいました。競技は異なりますが、どのスポーツにも通じる大切な言葉が散りばめられていた気がします。



Tada Kensuke
多田 憲介
アナリスト

子供の頃からあまりテレビは観てきませんでした。何故なのか考えてみたのですが、「なんとなく」情報収集することが苦手だったのだと思います。アナリストという仕事を通じて、たくさんの素晴らしい企業との偶然の出会いを経験してからは、テレビを含め「なんとなく」入ってくる情報を大切にできるようになりました。もちろんテレビは「なんとなく」観るもの、という考えは勝手な思い込みであることは承知しています。

債券ってなに？～債券の基礎知識～【YouTube】

ひふみらいとがひふみグローバル債券マザーファンドを通じて投資している「債券」について、いまさら聞けない基礎知識を約10分で解説する動画をYouTubeの公式チャンネルにて好評配信中です。

専門用語をできるだけ使わずに、当社社員が分かりやすくお伝えしております。

ぜひご視聴いただき、債券運用への理解の一助としていただければ幸いです。



レオス・キャピタルワークス
【投資信託「ひふみ」公式】YouTubeチャンネル
登録者数2万人突破！
チャンネル登録をお願いします！

運用メンバーからのメッセージ



Fukumuro Mitsuo
福室 光生
債券戦略部長
シニア・ファンドマネジャー

水曜スペシャル 川口浩探検隊です。やらせだと思いつつも、楽しんでいた記憶があります。あのような設定はもう無理でしょうね。



Okada Taisuke
岡田 泰輔
未来戦略部
シニア・ファンドマネジャー

テレビ離れはしておらずバラエティからドラマまで幅広く見ますが、録画を早送りで見ることも多くテレビの前で過ごす時間は減っています。好き「だった」番組はいま思い出せる範囲では、なるほど！ザ・ワールド、わくわく動物ランド、世界名作劇場、初代ガンダム、8時だヨ！全員集合、F1、日曜劇場、サ道など。朝ドラは普段見ませんが、カムカムエヴリバディだけは全部見ました。



Miyake Kazuhiro
三宅 一弘
運用本部
経済調査室長

子供の頃は、巨人の星などのスポコンアニメ、吉本新喜劇や藤山寛美の松竹新喜劇が楽しみでした。社会人になってからはテレビを見る機会がニュース、歴史や自然などの特集番組、2時間ドラマなどに減りました。コロナ禍以降、報道番組などテレビを見る機会が増えています。



Hashimoto Yuichi
橋本 裕一
マーケットエコノミスト

大河ドラマは大好きでした。保育園児の頃から観ていました。意味の分からない言葉や昔訛りがたくさん出てきて、歴史上の人物に感情移入していました。中学生くらいのとき「なんか台詞が現代語っぽくなったなあ」と個人的に感じたシリーズがありました。なんとなく気持ちが萎えてそこから観る習慣がなくなりました。

ひふみ公式LINEアカウント



ひふみ

「ひふみ」を運用するレオス・キャピタルワークスはお客様に向けてLINEでの情報提供を始めました。お客様と長期的な資産形成を一緒に行なっていくためにさまざまな情報をお届けします。

こちらから**LINEお友だち登録**をお願いします
またはLINEにて「ひふみ」で検索

LINEでできること

- ✓ ひふみ口座へのログイン
- ✓ 記事コンテンツ、映像コンテンツの配信をお知らせ
- ✓ 当社イベント・セミナーのお知らせと申し込み
- ✓ メニュー画面からYouTube「お金のまなびば！」へ簡単アクセス
- ✓ 随時、ひふみからの記事や動画のお知らせも届きます！

ひふみらいとの特色

「ひふみらいと」は、投資信託証券への投資を通じて、主として内外の株式および内外の債券に実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として運用を行ないます。

- ① 投資信託証券への投資を通じて、世界の株式および債券等に分散投資を行ないます。
- ② 原則として、株式に約10%、債券に約90%投資します。

ひふみ投信の特色（ご参考）

「ひふみ投信」は、マザーファンドを通じて信託財産の長期的な成長を図るため、次の仕組みで運用します。

- ① 国内外の上場株式を主要な投資対象とし、市場価値が割安と考えられる銘柄を選別して長期的に投資します。
- ② 株式の組入比率は変化します。
- ③ 運用はファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて行ないます。

ひふみワールドの特色（ご参考）

「ひふみワールド」は、マザーファンドを通じて信託財産の長期的な成長を図るため、次の仕組みで運用します。

- ① 日本を除く世界各国の株式等を主要な投資対象とし、成長性が高いと判断される銘柄を中心に選別して投資します。
- ② 株式の組入比率は変化します。
- ③ 株式の組入資産については、原則として為替ヘッジを行ないません。
- ④ 運用はファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて行ないます。

投資リスク

■ 基準価額の変動要因

- ・ 投資信託証券への投資を通じて株式など値動きのある証券（外国の証券には為替リスクもあります。）に投資いたしますので、基準価額は、大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。これらの運用により生じる利益および損失は、すべてお客様（受益者）に帰属します。
- ・ 投資信託は預貯金等とは異なります。

■ 基準価額の変動要因となる主なリスク

価格変動リスク	国内外の株式や公社債を実質的な主要投資対象とする場合、一般に株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は発行体の信用力の変動、市場金利の変動等を受けて変動するため、その影響を受け損失を被るリスクがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性のもとでの取引が行なえない、あるいは不利な条件で取引を強いられたり、または取引が不可能となる場合があります。これにより、当該有価証券等を期待する価格で売却あるいは取得できない可能性があり、この場合、不測の損失を被るリスクがあります。
信用リスク	有価証券等の発行者や有価証券の貸付け等における取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想される場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となるおそれがあります。投資した企業等にこのような重大な危機が生じた場合には、大きな損失が生じるリスクがあります。また、実質的に投資した債券の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、債券価格が下落する可能性があり、損失を被るリスクがあります。
為替変動リスク	外貨建資産を組み入れた場合、当該通貨と円との為替変動の影響を受け、損失が生じることがあります。また、一部の資産において、為替ヘッジを行なう場合に円の金利が為替ヘッジを行なう通貨の金利より低いとき、この金利差に相当するヘッジコストが発生します。
カントリーリスク (エマージング市場 に関わるリスク)	当該国・地域の政治・経済情勢や株式を発行している企業の業績、市場の需給等、さまざまな要因を反映して、有価証券等の価格が大きく変動するリスクがあります。エマージング市場（新興国市場）への投資においては、政治・経済的不確実性、決済システム等市場インフラの未発達、情報開示制度や監督当局による法制度の未整備、為替レートの大きな変動、外国への送金規制等の状況によって有価証券等の価格変動が大きくなる場合があります。また、新興国の公社債は先進国の公社債と比較して価格変動が大きく、債務不履行が生じるリスクがより高いものになる可能性があります。

※投資リスク(基準価額の変動要因)は、上記に限定されるものではありません。

お申込メモ

	ひふみらいと	ひふみ投信（ご参考）	ひふみワールド（ご参考）
商品分類	追加型投信／内外／資産複合	追加型投信／内外／株式	追加型投信／海外／株式
当初設定日	2021年3月30日	2008年10月1日	2019年10月8日
信託期間	無期限		
決算日	毎年4月15日(休業日の場合翌営業日)	毎年9月30日(休業日の場合翌営業日)	毎年2月15日(休業日の場合翌営業日)
収益の分配	決算時に収益分配方針に基づいて分配を行いません。分配金再投資専用のため、分配金は自動的に再投資されます。		
購入単位	1,000円以上1円単位の金額指定で受け付けます。		
購入価額	ご購入のお申込受付日の翌営業日の基準価額（1万口当り）		
購入代金	販売会社が定める日までに販売会社にお支払いください。		
換金(解約)単位	1口以上の口数指定または1円単位の金額指定で受け付けます。		
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額（1万口当り）		
換金代金	換金申込受付日から起算して6営業日目から支払われます。	換金申込受付日から起算して5営業日目から支払われます。	
購入・換金申込受付不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行、香港証券取引所、香港の銀行またはロンドンの銀行のいずれかの休業日と同じ日付の場合には、申込受付は行ないません。	—	ニューヨーク証券取引所または香港証券取引所のいずれかの休業日と同じ日付の場合には、申込受付は行ないません。
申込締切時間	購入・換金ともに、毎営業日の15時までに受け付けたものを当日のお申込みとします。		
課税関係	課税上は、株式投資信託として取り扱われます。配当控除の適用はありません。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。		

お客様にご負担いただく費用

◇直接ご負担いただく費用：ありません。

申込手数料・換金（解約）手数料・信託財産留保額 は一切ありません。なお、「スポット購入」に際しての送金手数料はお客様負担となります。

◇間接的にご負担いただく費用：次のとおりです。

	ひふみらいと	ひふみ投信（ご参考）	ひふみワールド（ご参考）
運用管理費用（信託報酬）	ひふみらいと：信託財産の日々の純資産総額に対して年率0.55%（税込）を乗じて得た額 投資対象とする投資信託証券（ひふみワールドファンドFOFs用（適格機関投資家専用））：純資産総額に対して年率0.0022%（税込） 実質的な負担※：純資産総額に対して年率0.5522%（税込）程度	信託財産の日々の純資産総額に対して年率1.078%（税込）を乗じて得た額	信託財産の日々の純資産総額に対して年率1.628%（税込）を乗じて得た額
監査費用	信託報酬とは、投資信託の運用・管理にかかる費用のことです。日々計算されて、投資信託の基準価額に反映されます。毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき信託財産から支払われます。 ※投資対象ファンドを基本の組入比率で按分した投資対象ファンドの運用管理費用（信託報酬）を加味して、投資者が実質的に負担する信託報酬率について算出したものです。この値は目安であり、各投資信託証券への投資比率の変更等により変動します。また、投資対象ファンドの変更等により今後変更となる場合があります。	信託財産の純資産総額に対して年率0.0055%（税込）以内を乗じて得た額。	
その他費用・手数料	投資対象とする投資信託証券における諸費用および税金等、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立て替えた立替金の利息など。	組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料（それにかかる消費税）、先物取引・オプション取引等に要する費用、外貨建資産の保管等に要する費用、租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立て替えた立替金の利息など。	
	これらの費用は、運用状況等により変動するものであり、予めその金額や上限額、計算方法等を具体的に記載することはできません。		

※手数料等の合計金額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

当資料のご留意点

- 当資料はレオス・キャピタルワークスが作成した販売用資料です。投資信託のお申込みにあたっては、事前に販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- 当資料に記載されている当社が運用する投資信託の過去の運用結果等は、将来の結果等をお約束するものではありません。また、当該過去の運用結果等は、当該投資信託に投資をされた各投資家の利回りを表すものではありません。運用実績は投資信託の利益にかかる税金等を考慮していません。
- 当資料は作成日における信頼できる情報に基づき作成しておりますが、内容の正確性・完全性を保証するものではなく、また記載されている内容は予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- セミナー等で金融商品の説明等を行うことや、お客様からのご依頼がある場合に金融商品に関連する追加の説明等を行うことがあります。しかしながら、売買の推奨等を目的とした投資勧誘は行いません。また、金融商品の案内、説明等はあくまで各お客様ご自身のご判断に資するための情報提供目的であり、金融商品の購入等を推奨するものでもありません。

ファンドの関係法人

委託会社：レオス・キャピタルワークス株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1151号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社：(ひふみらいと)三井住友信託銀行株式会社
(ひふみ投信)三井住友信託銀行株式会社
(ひふみワールド)三菱UFJ信託銀行株式会社
販売会社：レオス・キャピタルワークス株式会社

各ファンドについてのお問い合わせ先



RHEOS CAPITAL WORKS

レオス・キャピタルワークス株式会社
コミュニケーション・センター
電話：03-6266-0123 メール：cc@rheos.jp
受付時間：営業日の9時～17時
ウェブサイト：<https://www.rheos.jp/>